

地域における海岸美化への取り組みについて

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」等の受賞者を紹介します。

本表彰事業は、沿岸域の住民、船舶の利用客等、海が大好きな皆様による、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民の皆様により一層海への親しみを深めていただくとともに、海の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て海洋・海事思想のより一層の普及を図ることを目的として、毎年、国土交通大臣及び各地方整備局長等が行っているものです。

以下、平成30年度の国土交通大臣表彰受賞者（地方整備局関係）及び地方整備局長表彰受賞者を紹介するとともに、その取り組み内容を一部紹介させていただきます。

平成30年 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰受賞者一覧

国土交通大臣表彰		各地方整備局長表彰	
受賞者名	ブロック名	受賞者名	ブロック名
久喜海づくり少年団	東北	佐井村子ども会育成連合会	東北
株式会社杉澤興業	東北	唐桑海友会	東北
由利本荘市立岩城中学校	東北	勝浦市立 郁文小学校	関東
南房総市立富山中学校	関東	特定非営利活動法人 八丈島産業育成会	関東
新島村立新島小学校	関東	特定非営利活動法人 横須賀港湾防災支援会	関東
C.O.P. (クリーン・オーシャン・パーソンズ)	関東	特定非営利活動法人 海レクサポートせいらう	北陸
射水市立東明小学校児童会	北陸	新潟下町をよくする会	北陸
田原市立東部中学校	中部	穴水町グラウンド・ゴルフ協会	北陸
津市立香良洲小学校	中部	パナソニック 株式会社 車載エレクトロニクス事業部 敦賀	北陸
特定非営利活動法人近畿みなとの達人	近畿	株式会社東遠浄化槽管理センター 東遠ビーチクリーン	中部
洲本念法寺	近畿	網家 義郎	近畿
富海地区社会福祉協議会	中国	坂越地区自治会連合会	近畿
長崎大学水産学部学友会 長崎大学水産学部海洋研究会	九州	坂越のまち並みを創る会	近畿
		和歌山市立 西脇中学校	近畿
		灘地区社会福祉協議会	中国
		小松島市和田島小学校	四国
		一般社団法人 愛媛県建設業協会宇摩支部	四国
		特定非営利活動法人 環境の杜こうち	四国
		玄海学園	九州
		公益財団法人日本釣振興会 佐賀県支部	九州
		熊本県立天草拓心高等学校 マリン校舎	九州

「久喜の海は私たちが守ります」～久喜浜クリーン作戦～

久喜小学校の校区は岩手県久慈市南東の三崎半島南端に位置し、北の久喜湾から南の野田港につながる大きな湾内から臨む太平洋の眺望が大変よいところにあります。また、隣接する小袖湾は朝の連続テレビ小説の放送を受け、今も多くの観光客がロケ地を訪問しています。

本校は、近年の少子化に伴い、本年度は全校児童が30名の小規模な小学校です。地域は海に面していることから、児童の父母、祖父母の多くは漁業に従事しています。磯漁業が盛んで、昆布、こうなご、うに、あわび等を採取し、定置網では鮭や鯖、いわしを中心に様々な魚を獲っています。

本校では平成9年、岩手県で「豊かな海づくり全国大会」が開催されたことを機に、地域の基幹産業である漁業への理解促進と次世代の担い手育成を目的に、同年6月「久喜海づくり少年団」を結成し、心の教育を支える豊かな体験活動を推進して参りました。

久喜海づくり少年団は、久喜浜清掃、磯観察、漁業体験（定置網船乗船体験・ウニ獲り体験）、ホヤ販売体験、新巻・イクラづくり体

験など、地域の漁業関係者の支援を頂きながら多くの活動を行っています。

久喜海づくり少年団の活動の中心は「久喜浜クリーン作戦」と銘打っての久喜浜清掃です。全校で久喜浜に出かけ、漂着ゴミの収集・仕分け作業を行っており、今年度で21年目となります。実際に作業を行うことで、久喜の海の自然環境に関心を持ち、自分たちの生活に海と深い関わりがあることを学ぶと共に、自然を守るための見方や考え方が身についてきています。活動の中で、子どもたちから「久喜の海は私たちが守ります。」という頼もしい言葉も聞かれ、自分たちでできる環境保護活動を通して、自然を大切にしようとする気持ちがより育ってきていることを実感しています。

児童数の減少に伴って、活動の規模等が変わることはあっても、これからも久喜浜清掃を自然環境について考える貴重な機会ととらえ、地域の方々のご支援を頂きながら、この大切な活動を継続して参りたいと思っています。



「楽しみ」ながら、「自然」「海」「砂浜」を考える

私たちグリーン・オーシャン・パーソンズ（C.O.P.、通称「コップ」）は、1990年に相模湾沿岸で行われた「SURF90」のイベントをきっかけに、相模湾沿岸での月1回のビーチ・クリーン・アップをはじめ、「環境」「海」「砂浜」をテーマにしたさまざまなイベントの企画・運営を手がけてきました。メンバーは、地元湘南エリアを中心に20代から70代までと幅広く、老若男女問わず、約20名が在籍しています。

毎月の定例活動の他に、年2回開催されている国際的なイベント（春はアースデー、秋は国際海岸クリーンアップ）にもスタッフとして参加しています。

ゴミをただ拾うのではなく、このゴミがどこから流れてきたものなのか、またどの種類のゴミが多く落ちているのかを見て、考え、楽しみながら活動が続けています。またビーチクリーンアップ後の反省会や懇親会を通じて、同じ年代では経験できない楽しい時間を過ごしています。

活動当初はカンやビンなどのゴミが多く落ちていましたが、ここ数年はプラスチック破片やタバコのフィルターなどが多く落ちていて、まだゴミが多く落ちているのが現実です。また、海岸や海で捨てられたものの以外に、川や街から流れているものが多く砂浜に打ち上げられています。時代ごとに変わるゴミの種類にも目を向けながら、関係団体などと協力しながら、ゴミ削減に努力をしています。

活動してから30年近くなり、最近では初めてビーチクリーンアップを行う団体のサポートを行うなど、ビーチクリーンアップを通じて、その輪を広げています。

今後も私たちの活動のポリシーである、「海の環境に関わる問題を深く掘り下げて考え、アクションは遊びを交えながら、楽しく展開する」ということを踏まえて、誰もが気軽に参加できる裾野の広い環境活動を、私たちC.O.P.は目指していきます。



地域に育てられ、地域を守る

本校は射水市で最も東に位置する小学校です。市で一番に朝日が昇る明るい学校が校名の由来です。校区は、豊かな自然に恵まれています。海岸線には、砂浜の白と芝生の緑のコントラストが美しい海水浴場があります。また、田園地帯も広がり、そこに流れる用水路は汽水域となっているため海水魚と淡水魚が同時に見られ、自然の不思議を感じることができる場所となっています。このこれらを活用した教育活動に対し保護者や地域の人々はとても協力的であり、多様な学習が展開できています。

校区の中学校である射北中学校生徒会の呼びかけで、24年前に海岸の清掃ボランティア活動を始めました。現在は、本校PTA及び自治会との協力の下、地域挙げての海岸一円の清掃活動に発展しています。「ふるさとクリーン作戦」として、毎年7月第一日曜日の恒例行事となっています。参加する子供たちにとって、地元の海を守る態度、ふるさとを愛する心を保護者や地域の人々から直接教えてもらうとてもよい機会となっています。回収したゴミは、地域の人々の協力で射水市で処理してもらいます。不審な漂

着物等は大人が処理するなど、安全面にも配慮していただき、子供たちは安心して活動しています。

近年、秋には、「海辺の漂着物調査」を行っています。射水市の協力の下、5年生が漂着物を調査し、環境保全の大切さについて学んでいます。子供たちは、班ごとに分かれ、大小様々な漂着物を拾い集め、種類別に分別して分析します。多くがペットボトルやプラスチックトレイの破片です。海外からの漂着物も珍しくありません。小さなプラスチックや発砲スチロールの破片は、魚が飲み込んで死んでしまう危険なものであることを知り、海洋資源への影響を心配する子供もいます。

以上のように、本校の行っている取組は、保護者、地域の協力なくしては続けられなかったと思います。このことに感謝するとともに、今後は、子供たち自らが地域に貢献できる人になると信じています。大人になったら自分の子供に、そして地域の子供にふるさとの自然を教えられる人に育つことを願っています。



香良洲海岸クリーン作戦 ～まもろう「白砂青松」～

私たちの香良洲町は、三重県津市の東部に位置し、東側を伊勢湾に南東側を雲出川に、北東側を雲出古川に囲まれた東西1.8km、南北2.7km、面積3.9km²の小さな三角州です。

古くから漁業、稲作、園芸作物の梨づくりが盛んな地域でしたが、今では時代の波に押され、漁業や農業に携わる家は徐々に減ってきている状況です。

昔から、海と共に生きてきた香良洲の地域は、海の自然環境や白砂青松を守ろうとする意識は高く、海岸清掃は小学校と中学校の合同行事として本年度で39回目となり、今は、小学校と中学校の伝統行事となっています。

中学校の全生徒が各学年10班に分かれ、小学校の4年生から6年生の児童とひとつの班を作ります。中学生が小学生を指導しながら、空き缶やペットボトル、流れ着いたゴミなどを分別しながら丁寧に集めます。

児童の中には割れた瓶やガラスが多いことに気づき、海岸が危険な環境にあることに憤りを持つ者もいます。また、憤りを通り越し、悲しくなったと感じる者もいます。多くの子どもたちは環境保全の必要性を強く持つ日となっています。

この日は、津市教育委員会事務局や香良洲総合支所地域振興課の協力もあり、パッカー車やトラックが配車されます。子どもたちが集めた2トンにも及ぶゴミを市役所の皆さんの協力により、分別し、処分場へ運んでいただきます。子どもたちは、行政の皆さんからお褒めの言葉と環境保全の大切さの説明を受け、豊かな自然を守る意欲を毎年強くしていきます。

この度、国土交通省から過分なる栄誉を受け、心よりお礼申し上げます。今後も、子どもたち一人一人が環境保全の意義を理解し、使命感を持って活動を継続していけるよう、更に取り組んでいきたいと考えています。



阪神・淡路大震災を忘れない ～神戸震災メモリアルパーク等の清掃～

1995年1月17日阪神淡路地方を襲った震災は兵庫県南部に大きな被害を与えました。神戸港でも耐震化されていた岸壁を除きほとんどの岸壁が被害を受けました。関係機関、関係者の努力により復旧はスムーズに進み、現在では震災前の貨物の輸送量を上回っています。

神戸港のメリケンパークの一角に、大震災の教訓、港の重要性、日本国内外の多くの人々が一体となって港の復旧・復興に努めた様子を後世に伝えようと、メリケンパークの岸壁の一部・約60メートルを、震災遺構として被災当時のままの状態で保存しています。

メリケンパークには、神戸のランドマーク「神戸ポートタワー」をはじめ神戸海洋博物館などの建物が、またスターバックスコーヒーの店も最近出店しました。あまり知られてはいませんが、神戸は映画を始めて紹介したところから、スクリーンに見立てた中空の石とその前に客席に見立てた石があり、これには古今東西の名優の名前が刻まれています。明治時代に横浜とともにブラジル移民の出港地であったことから移民の銅像も設置されています。このように説明を聞か、紹介の文を見ないと分からないが由緒ある施設がそれとなく置かれているのもメリケンパークの良い所です。2017年は神戸港開港150年を記念して大規模な改修が行われ、以前とは一新した新しい姿となっています。近年外国からの来訪者も多く、様々な言葉が聞こえてき

ます。親子連れの観光客や近くの方の姿も見られ、また、近くの客船バースにはクルーズ船の来訪もあり、歓迎行事なども行われています。

NPO近畿みなとの達人は、活動の開始2年目の平成18年(2006年)から、メリケンパーク一帯の石積部、陸上部の清掃作業を毎月1回実施し、平成30年(2018年)7月には140回を数えるまでになりました。毎回10名前後の会員、または賛同者が集まってゴミ取り火箸とゴミ入れの袋を片手に芝生や植え込みの中、南側の岸壁前の石積みで活動を行っています。

NPO近畿みなとの達人では、震災メモリアルパーク清掃とともに平成19年(2007年)から「瀬戸内海クリーンアップ作戦」の一環として、「須磨海水浴場」、「大阪南港野鳥園」の清掃活動を行っています。

須磨海岸は謡曲「松風」、歌舞伎・文楽の「一谷嫩軍記～熊谷陣屋」の背景にもなり、明治末からは海水浴場として京阪神から多くの人が訪れる場所である。毎年6月末には海開きを前に海浜清掃が行われ、地域の学校、団体、会社など数千人の参加者が参加しています。ただ、未だ海水浴客のない時期なのでそれほどゴミは無く、奪い合いの様相が生じます。海水浴シーズンの終わった9月にも海浜清掃の作業がありますが、6月に比べ参加者は少ないにも拘らず、夏のゴミが多くありこれから考えるべきことではないかとも思えます。



震災メモリアルパーク



石積みでの清掃作業



須磨海岸クリーン作戦

富海クリーン作戦 ～受け継ごう きれいで豊かな海～

富海は、本州の最西端山口県の中央部に位置する防府市の東端にあり瀬戸内海に面した人口は約2000人、その内の半数が65歳以上という、高齢化と人口減少に直面している地区です。その名が示すとおり海との関わりは深く、多くの恵みを受けてきた所です。

今年は明治維新150年に当たりますが幕末の動乱期に吉田松陰や高杉晋作、久坂玄瑞等が京、江戸との往来のため頻繁に立ち寄った港ですし、井上馨、伊藤博文がイギリスからの帰国時上陸した地です。

昭和61年にスタートした富海クリーン作戦は、海水浴シーズンを迎える前の恒例行事となっていますが、それ以前には梅雨明け後、児童生徒が砂浜に落ちているガラスの破片や空き缶等のゴミ拾いを行い、水泳講習が安全にできるようしてきました。

その子供達の姿を見て次第に近隣の住民もゴミ拾いに参加するようになり、地区をあげての清掃作業に発展、その後地区外のボランティアの皆さんの参加もいた

くようになり、毎年500名を超える参加者を得て今年で32回を数えました。

安全に気持ちよく海水浴を楽しんでもらおう、いい思い出を持って帰ってもらいたいとの想いを込めて砂浜や、隣接する松林等の清掃を行っています。

事前の打ち合わせから収集したゴミの処理まで多くの団体のご支援、ご協力をいただいています。また、小学生から高齢者までそれぞれの体力等にふさわしい作業を分担して行います。作業後はきれいになった海岸を目にすることができます。満足感、達成感を参加者全員で共有できます。

この富海クリーン作戦は海岸の存在自体が私たちの受けている大きな恵みであることを気づかせてくれるものですし海を愛する心、郷土を愛する心に繋がるものです。

受賞を期に、先人から受け継いでききれいな海、豊かな海、美しい海岸を美しいまま次の世代に引き継ぐ決意を新たにしたいところです。



高知市種崎海岸でのビーチクリーンアップ&海岸ごみ調査の取り組み

NPO法人環境の杜こうちは、環境活動の中間支援組織として平成18年に設立しました。以来、高知県内の環境活動団体、行政、学校、企業、地域の環境活動のネットワークを築き、環境活動の支援や環境学習の推進に関する事業、地球温暖化防止に向けた活動の支援、情報の発信、環境政策の研究と提案などの活動を行っています。

種崎海岸でのビーチクリーンアップ活動は、毎年春と秋の2回行っています。海岸を清掃し、拾ったごみの数を種類別に数えて集計するとともに、ごみ問題に関するミニ講座を行い啓発につなげています。春のクリーンアップは、毎年4月に高知市で開催される「EARTHDAYS KOCHI」のイベントの一環として実施し、調査の結果をイベント会場で発表しています。秋のクリーンアップは、「国際海岸クリーンアップ(ICC)」のキャンペーンに参加するために行っています。

種崎海岸は高知県の都市部を流れる7つの河川が流れ込む浦戸湾の出口に位置しており、そこに打ちあがるごみのほとんどは都

市部で暮らす私たちの生活から出たごみです。清掃と調査活動を通じて、どんなものがごみとなって海に流れているのかを知り、自分にできることを考えるきっかけにしたいだけだと思います。

この活動は団体設立以前には有志数名で行っていましたが、平成18年の団体設立からは、当時の有志を中心に事務局スタッフや会員も加わり、賛同する地域住民にも参加を呼び掛けながら継続してきました。最近では、プラスチックごみが海洋生物に与える影響の大きさが徐々に明らかになり、使い捨てプラスチック製品の使用抑制の取り組みが広がるなど、海ごみに対する関心が高まってきたことから、学校等からの海ごみ問題に関する問合せや講師依頼を受ける機会も増えています。これからもクリーンアップ活動を継続するとともに、これまでの経験やデータを活かしたさまざまな活動に取り組み、地域の美化意識、環境意識の啓発に貢献していきたいと思っています。



ふるさとの自然を守る ～小中一貫で取り組む さつき松原 自然保護活動～

私たち玄海学園は、玄海中学校と施設一部一体型校舎の玄海小学校、数キロ離れたところにある玄海東小学校、離島にある地島小学校の4校からなります。小中一貫教育に力を入れており、小中交流、小中交流を盛んに行っています。

本学園の教育目標は「地域の一員としてより良く生きる子どもの育成」であり、地域を愛し、地域で活躍できる子どもの育成を目指しています。

本学園は自然環境に恵まれ、特に「さつき松原」(全長約5.5Kmに及ぶ松原。日本白砂青松100選にも選ばれ、松原から、海を見ると白浜の海水浴場があり、青い海の向こうには地島、大島、沖ノ島などの島が見え、非常に良い景観である。)は、地域を代表する素晴らしい自然環境と言えます。

この美しい「さつき松原」が松くい虫による被害で、年々小さくなっています。それに、海岸(さつき松原海水浴場)には、多くのごみが漂着し、美しい景観を壊しているといった問題があります。

この問題を解決するために、玄海学園では多くの取り組みを行っています。その一部を紹介します。

(1) 松原保全活動(玄海小学校・玄海中学校で合同実施)

学校近くの松原を定期的に見回り、下草刈りや松葉拾いを行います。小学生と中学

生でグループを組み、中学生のリーダーシップの下、協力して松葉をポリ袋に集めます。年間600袋ほどになります。

(2) 海浜清掃(玄海東小学校・玄海中学校で合同実施)

さつき松原に溜まっていく様々なゴミを小中学生で力を合わせて拾います。釣りや漁に関係したゴミやプラスチック・発泡スチロールのごみ、外国から流れてきた様々なゴミなど大量に回収処分します。この活動でも、中学生が小学生をリードします。

(3) 松の植樹(3小学校合同)

将来大きな松に育ってくれるように願いを込めて、小学生が松の苗を植樹しています。自分たちが植えた松を時々観察し、その成長を実感しています。

このような活動を通して、地域の自然を愛し、大切にすることを身に付けています。また、中学生は優しい心やリーダーシップが育っています。小学生は中1ギャップの解消につながっています。

昨年7月に、玄海学園そばにあるにある宗像大社が世界文化遺産に登録されました。それに伴い、多くの人が玄海地区に来るようになりました。そんな多くの人に少しでもこの地区の自然環境のすばらしさを伝えたい、そして、自然を愛し自然を守ろうという心を代々引き継いでいってほしいと思っています。

